

森松産業株式会社



■ プラスチックシート製品を幅広く手がける森松産業の本社工場



■ 製品は文具からデスクマットまで多岐にわたる



■ EVA樹脂製の甲冑も事業化



世の中の役に立つ製品の企画開発に情熱を燃やす森直樹社長

data：もりまつさんぎょう

代表者役職名・氏名／代表取締役・森直樹
 設立年月日／昭和46年7月10日
 住 所／〒457-0801 名古屋市南区丹後通5-18
 電 話／052-612-6336
 F A X／052-612-8835
 U R L／http://www.morimatsu.net
 E-Mail／naoki@morimatsu.net
 資 本 金／3600万円
 業 種／プラスチックシート製品の製造・販売
 従業員数／18人

プラスチックシート製品の“デパート”

森松産業は文具や雑貨、オフィス用品、キッチン・リビング用品などプラスチックシート製品を幅広く手がける。創業当時はハンドバッグや袋物用の素材を販売していたが、昭和40年前後、塩化ビニールが普及し始めたタイミングでビニール製の文具などの分野に参入した。主力製品は文具や店頭用POP製品などで、デスクマットもロングセラー商品だ。このほかフロアマット、非常時対策用品や遮水工事用材料など製品群は極めて多い。「大半の製品が顧客の要望に応じて素材段階から最終製品まで共同で取り組むの

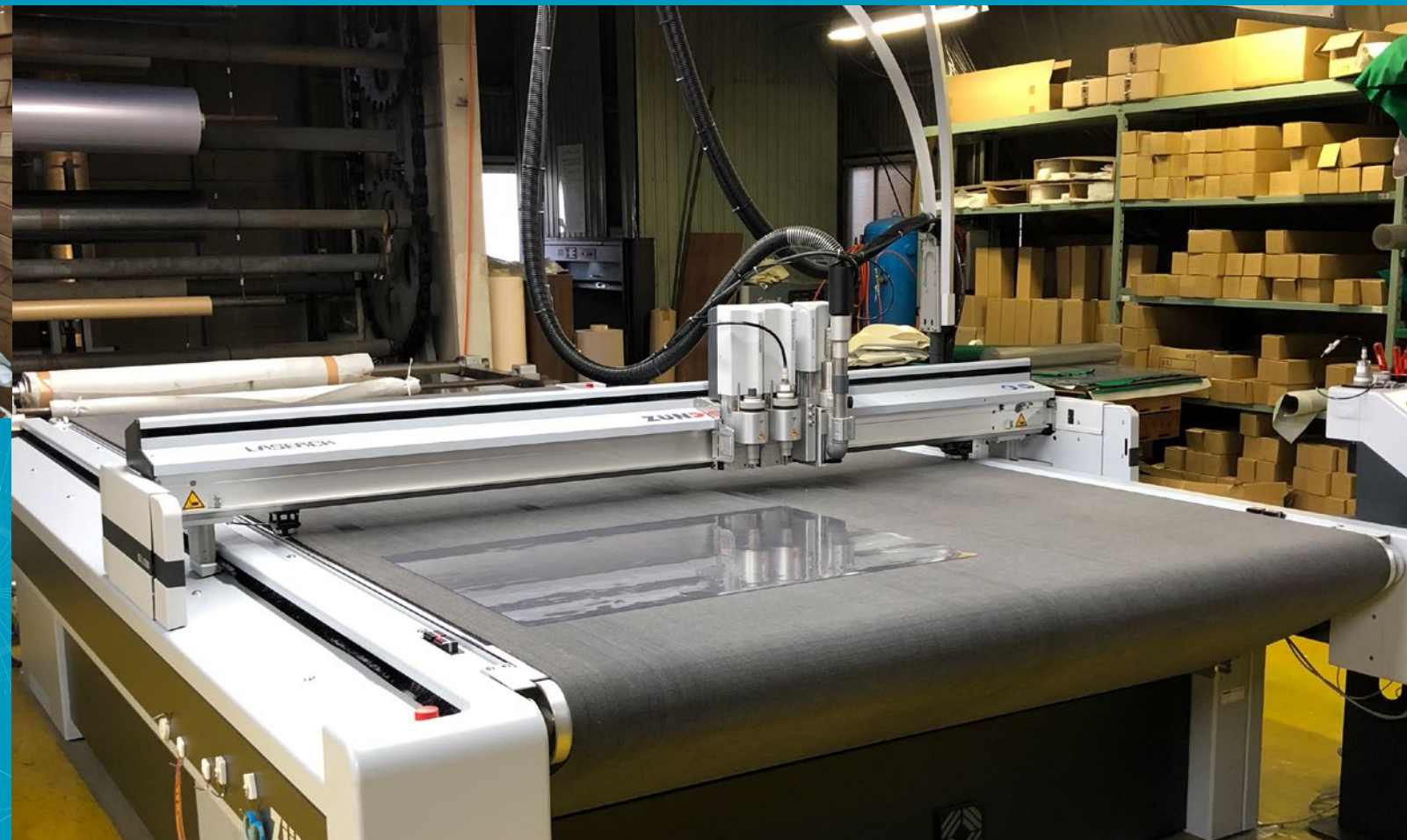
で案件の数だけ商品が増える」（森直樹社長）という。規格品はないので大量の製品在庫を抱える必要のない業態だ。特に通販関連は頻繁に商品の入れ替えが発生するため、顧客との摺り合わせは重要だ。生産面では本社工場と近隣の要工場（名古屋市南区）との2工場体制で需要に応じて役割分担している。

多品種少量生産への対応本格化

同社の製品は高周波ウエルダーや油圧プレス機、数値制御（NC）カッターで製造される。主にプレス機は量産品に向いており、カッターは大物や複雑形状製品などの多品種ものに適している。全般に設備が

老朽化しており、本社工場に設置している大型プレス機も「30年選手」だ。年々多品種少量品の比率が拡大しており、製造方法を見直し、多品種でも利益を確保できる仕組みづくりに取り組んだ。

デスクマットやフロアマットなどの製造には、レシプロ方式による切断加工かプレス加工の2方式だった。サイズの大きい製品は複数工程が必要で顧客の要求する納期に十分対応できなかった。そこで「平成28年度補正革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」を活用して取り組みを本格化させた。事業計画は「最新の高精度カッティングマシン導入による多品種少量生産品

高精度カッティングマシンで多品種少量対応
納期短縮、精度も大幅に向上

■ 導入したカッティングマシン。大幅な生産時間短縮、加工精度向上を実現した

の拡販と生産性の向上」。設備は平成29年に要工場に導入した。

加工時間は大幅に短縮

導入したカッターのテーブルのサイズは1800ミリ×3200ミリメートルで大物加工に適している。加工スピードも速く、従来のレシプロ方式と比べ、加工時間は65%も減少した。また製品のずれ精度は従来のカッターは1〜3ミリメートルあったが、導入機は0・5ミリメートルと、大幅な高精度化も実現した。納期は7営業日だったのが半減できたという。

さらにツールのヘッドが3箇所あり、切断と穴開けを同時に行うな

ど多彩な加工法を選択できる。斜めや曲線など加工のバリエーションは豊富だ。このNCカッターを活用し「一枚からどんな形でもカットできるので多品種少量案件を拡大したい」（同）と意気込む。

“^{かっちゅう}甲冑”の生産にも威力発揮

同社は本業と並行してEVA樹脂製の^{かっちゅう}甲冑を事業化している。戦国時代ゆかりのスポットがある名古屋・中部エリアには甲冑のサークルが数多く活動しており、イベントも頻繁に開かれている。樹脂製なので軽量で雨にも強いので女性や子どもでも気軽に装着できる。

本社横には「甲冑ミュージアム」

まで建設し、一般に開放しているほか販売も行っている。テレビなど各種メディアでも紹介された。実はこの甲冑の生産でも新規導入したカッティングマシンが活躍している。「甲冑にはひもを通す穴が1200箇所もあり、切断しながら穴開けを行うこの機械が活用できる」（同）からだ。新設備の導入で社員のモチベーションも上がった。NC装置なので顧客から送られた図面でダイレクトに加工することも可能になる。「世の中の役に立つ機能性ある素材・製品を企画開発したい」（同）と、今以上に信頼ある企業をめざす。